# 板

三年

画数 8
筆順 木 木 杉 板
オン ハン・バン
クン いた

成り立ち

「手のひらをかえす」といういみをあらわした〝反〟と〝木〟とを組み合わせて作った字です。

「木を〝手のひら〟のようにうすくひらたく切って作った〝いた〟」をあらわした字です。

今では、木にかぎらず、〝うすくてひらたい〟ものならなんでも〝板〟といいます。

〔ハ行の音は、バ行に発音したり、パ行に発音する性質をもっているので、板の音がハンであればバンやパンという読み方があるものである。だから、音はハンだけ示せばよい。ところが、板にはバンは示されているがパンが示されていない。バンの音を示すなら、パンの音も示すべきである。〕

使い方

▽工作の時間に、板をつかって、しなもの作りをしました。ぼくは小さなはこを作りました。

▽いもうとが板の間であそんでいたので、「そこは、足がひえるから、たたみの上であそびなさい」と、おしえてやりました。

熟語例

▽看板（お店で、こうこくのために、名前などを書いて、かかげておく板。「ゆうびんきょくへ行くなら、この道をまっすぐ行って、たばこやさんの看板のあるかどを右にまがって、すぐですよ」などというふうに、つかいます。）

▽鉄板（鉄でできた板。「道をしゅうりしていて、あながあちこちにできているので、鉄板をさしかけて、歩けるようにしてある」などというふうに、つかいます。）

▽回覧板（町内などで、じゅんばんに、回して読むように紙に書いて、板にはったもの）

▽甲板（ふねの上の、木や鉄板をはった広い平らなところ。デッキ）





# 皮

三年

画数 5
筆順 ノ 厂 广 皮 皮
オン ヒ
クン かわ

成り立ち

けものの形をあらわした〝广〟と、手の形をあらわした〝又〟とを組み合わせて作った字です。

「けものの〝かわ〟をはぎとる」ことをあらわした字で、「けものの〝かわ〟」をあらわしたものです。

ひろく、人やけもののひょうめんをおおっている〝かわ〟のいみから、「ものの〝ひょうめん〟」といういみをあらわすのにつかいます。

〔同じ〝かわ〟と読まれる〝革（年6 846）〟は、「皮の毛を抜き去った〝かわ〟」をあらわした字である。しかし一般には、〝靴〟や〝鞄〟の材料になる〝鞣革〟のいみに使われている。〕

使い方

▽ぼくのおとうさんは、鳥の皮がすきで、よくお酒をのみながら、食べています。ぼくは、鳥の皮はきらいです。皮のひょうめんにブツブツとあながあいているのがいやです。

▽「とらぬたぬきの皮ざんよう」ということばがあります。たぬきの皮は高く売れますが、つかまえないうちから、いくらに売れるかしらと、そろばんをはじいてもしようがありません。

熟語例

▽皮膚（からだのひょうめんをおおっている皮。「乾布まさつをして皮膚をきたえるのは、からだに良い」などというふうに、つかいます。）

▽毛皮（毛がついたままのものの皮。「おかあさんは、毛皮のコートがほしいといっています」などというふうに、つかいます。）

▽樹皮（木の皮。木のひょうめんをおおっている皮のぶぶん）

▽皮相（もののひょうめん。うわべ。「皮相てきな見方」といえば、あさい見方といういみです。）